資料１

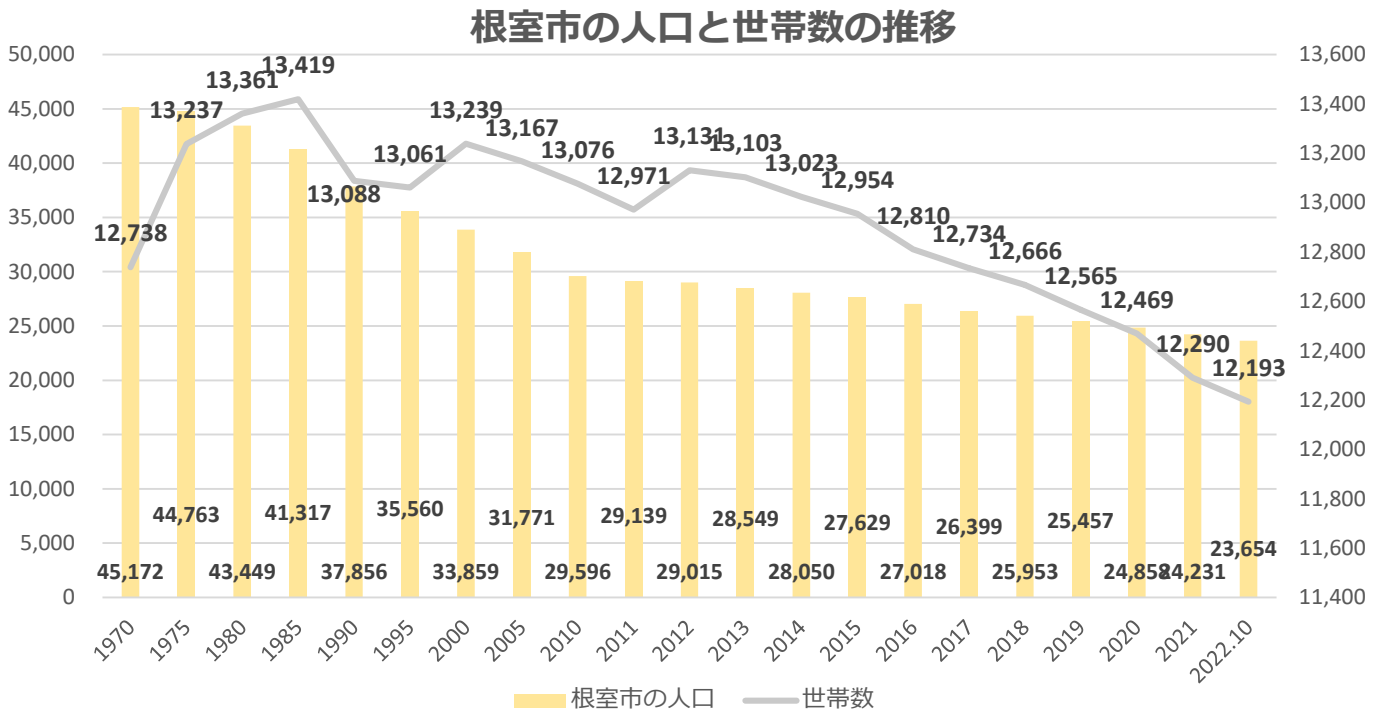
2022　根室市人口動態分析

令和４年１１月

根室市総合政策部総合政策室

人口推移（人口・世帯数）

データ



直近の人口推移

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
男	13,848	13,639	13,407	13,218	12,894	12,634	12,404	12,153	11,830	11,596	11,324
女	15,167	14,910	14,643	14,411	14,124	13,765	13,549	13,304	13,028	12,635	12,330
合計	29,015	28,549	28,050	27,629	27,018	26,399	25,953	25,457	24,858	24,231	23,654

増減の推移

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
男	－	▲ 209	▲ 232	▲ 189	▲ 324	▲ 260	▲ 230	▲ 251	▲ 323	▲ 234	▲ 272
女	－	▲ 257	▲ 267	▲ 232	▲ 287	▲ 359	▲ 216	▲ 245	▲ 276	▲ 393	▲ 305
合計	－	▲ 466	▲ 499	▲ 421	▲ 611	▲ 619	▲ 446	▲ 496	▲ 599	▲ 627	▲ 577

※「住民基本台帳」（市民環境課）

分析の視点

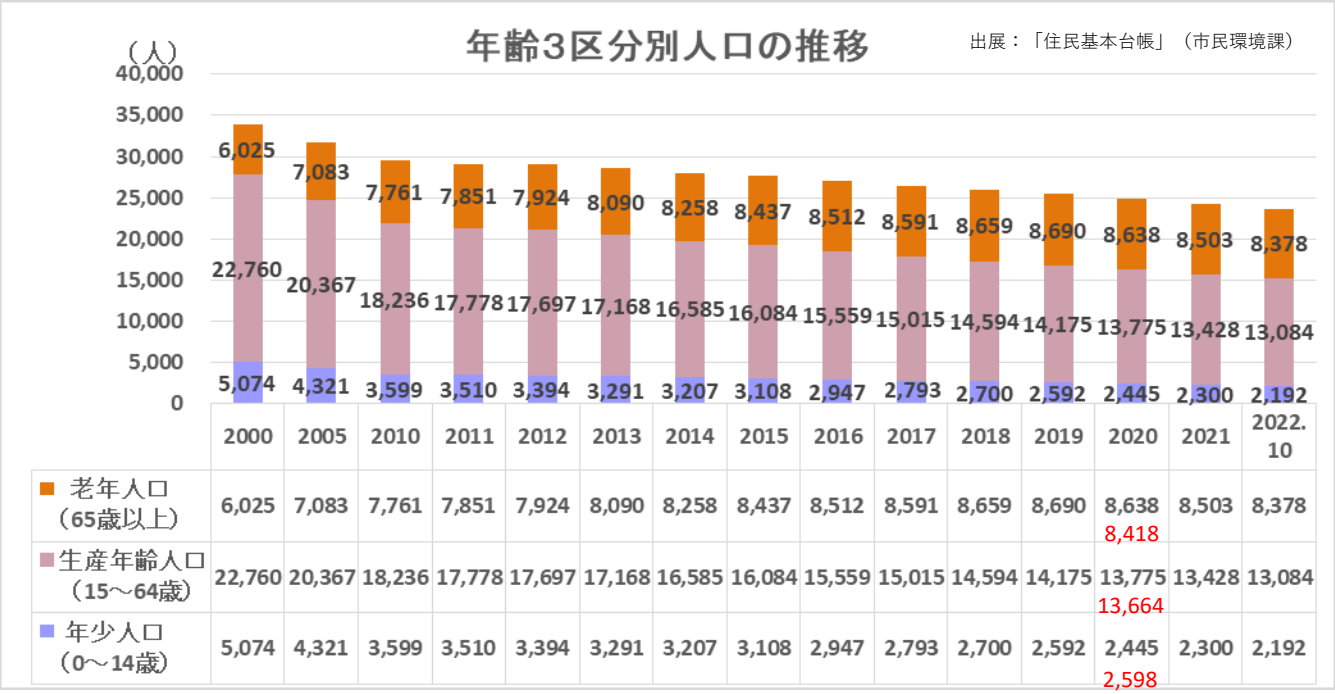
・根室市の人口と世帯数の推移を把握します。

（分析結果）

- 1968年（昭和43年）の49,892人をピークとして1974年から46年連続の減少。
- 本年10月末時点の人口は23,654人となり、ピーク時と比べて半数以下に減少。
- 2018年から人口減少が増加傾向にある。
- 2021年から男性より女性が多く減少し、男女比が逆転している。

人口推移（年齢３区分別）

データ



	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
老年人口（65歳以上）	6,025	7,083	7,761	7,851	7,924	8,090	8,258	8,437	8,512	8,591	8,659	8,690	8,638 8,418	8,503	8,378
生産年齢人口（15～64歳）	22,760	20,367	18,236	17,778	17,697	17,168	16,585	16,084	15,559	15,015	14,594	14,175	13,775 13,664	13,428	13,084
年少人口（0～14歳）	5,074	4,321	3,599	3,510	3,394	3,291	3,207	3,108	2,947	2,793	2,700	2,592	2,445 2,598	2,300	2,192

※人口ビジョン推計値

【年齢３区分別人口（男性）】

	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
年少人口（0～14歳）	2,566	2,212	1,871	1,850	1,775	1,712	1,676	1,619	1,540	1,461	1,391	1,330	1,249	1,174	1,119
生産年齢人口（15～64歳）	11,130	10,058	9,200	8,956	8,841	8,610	8,354	8,126	7,846	7,643	7,447	7,240	7,034	6,916	6,766
老年人口（65歳以上）	2,554	2,945	3,164	3,196	3,232	3,317	3,377	3,473	3,508	3,530	3,566	3,583	3,547	3,506	3,439
計	16,250	15,215	14,235	14,002	13,848	13,639	13,407	13,218	12,894	12,634	12,404	12,153	11,830	11,596	11,324

【年齢３区分別人口（女性）】

	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
年少人口（0～14歳）	2,508	2,109	1,728	1,660	1,619	1,579	1,531	1,489	1,407	1,332	1,309	1,262	1,196	1,126	1,073
生産年齢人口（15～64歳）	11,630	10,309	9,036	8,822	8,856	8,558	8,231	7,958	7,713	7,372	7,147	6,935	6,741	6,512	6,318
老年人口（65歳以上）	3,471	4,138	4,597	4,655	4,692	4,773	4,881	4,964	5,004	5,061	5,093	5,107	5,091	4,997	4,939
計	17,609	16,556	15,361	15,137	15,167	14,910	14,643	14,411	14,124	13,765	13,549	13,304	13,028	12,635	12,330

出展：「住民基本台帳」（市民環境課）

分析の視点

・地域の働き手として区分される生産年齢人口と、被扶養者となる年少人口、老年人口の3区分に分けて人口の推移を分析することで、人口構造の変化の傾向を大まかに把握します。

（分析結果）

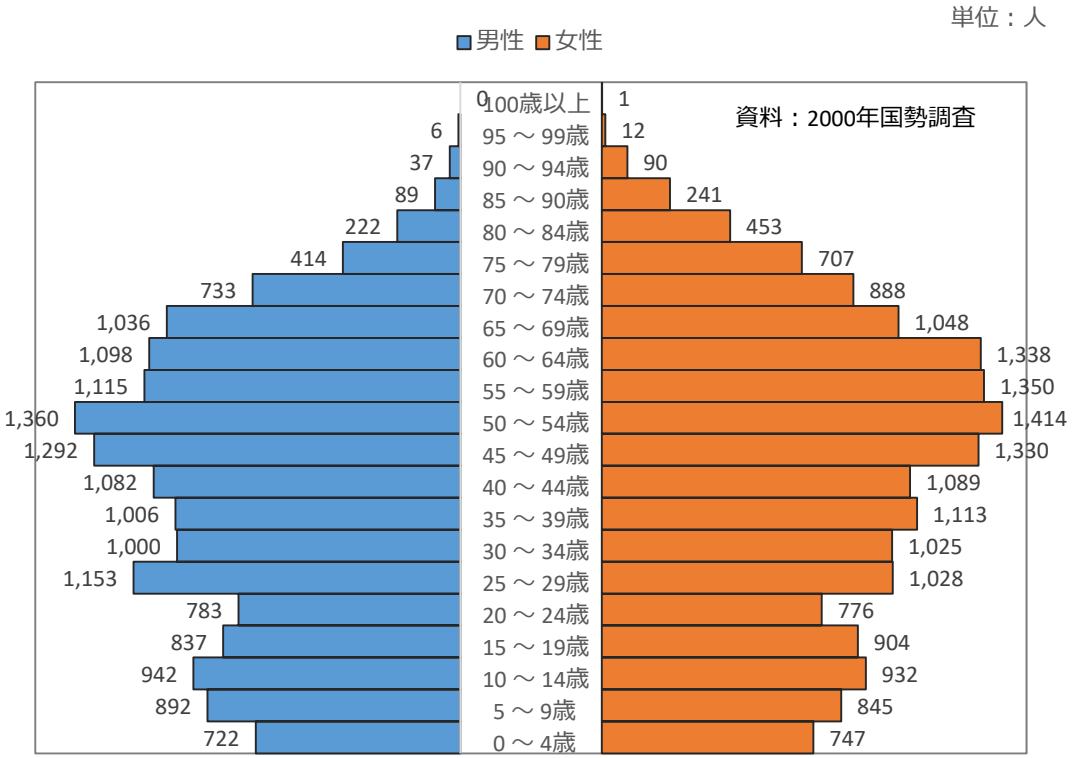
- 老年人口は2019年まで継続的に増加も、その後は減少傾向へ転じている。
- 生産年齢人口と年少人口は、老年人口の減少ペースを上回っているため、高齢化率が上昇している。
- 男女別の年齢３区分別人口において、特に生産年齢人口においては、2013年に男性数が女性数を上回って以降、この年代における女性の減少が拡大し、生産年齢人口における男女の人口差は年々拡大している。
- 生産年齢人口及び老年人口は、人口ビジョン推計値と比べ、抑制されており、総人口に対しても同様である。

人口ビジョン2020　24,680人
2020年12末住民基本台帳　24,858人

人口ピラミッド

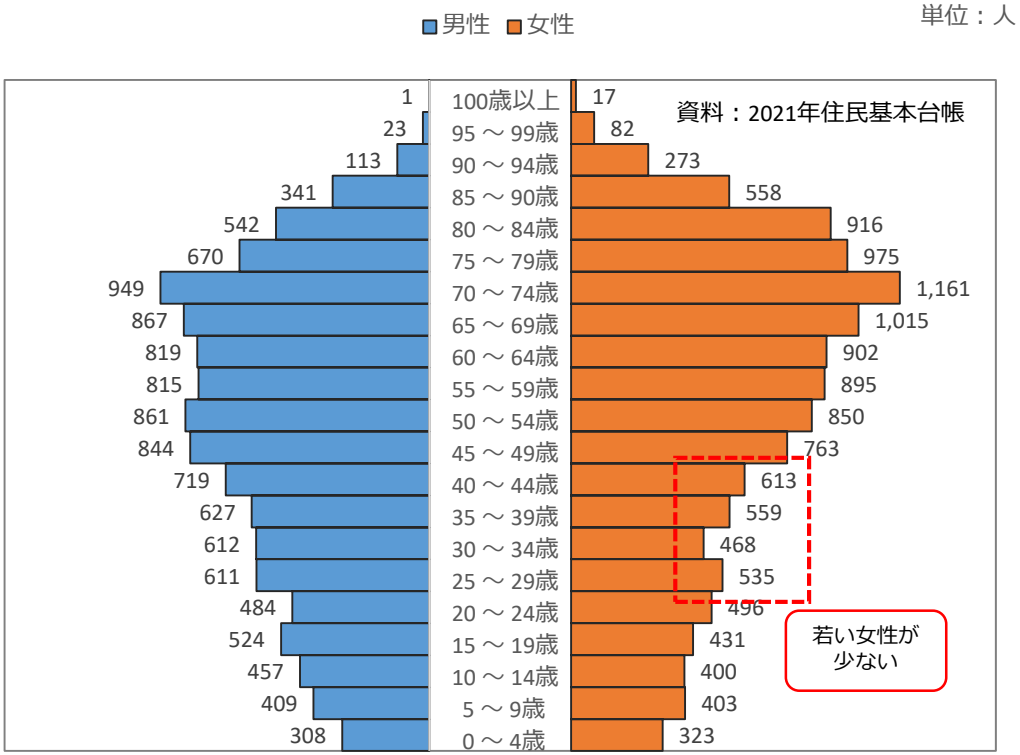
データ

人口ピラミッド 根室市 2000年



- 老年人口（65歳以上）：5,977人（18.0%）
- 生産年齢人口（15歳～64歳）：22,093人（66.6%）
- 年少人口（0歳～14歳）：5,080人（15.4%）

人口ピラミッド 根室市 2021年



- 老年人口（65歳以上）：8,503人（35.1%）
- 生産年齢人口（15歳～64歳）：13,428人（55.4%）
- 年少人口（0歳～14歳）：2,300人（9.5%）

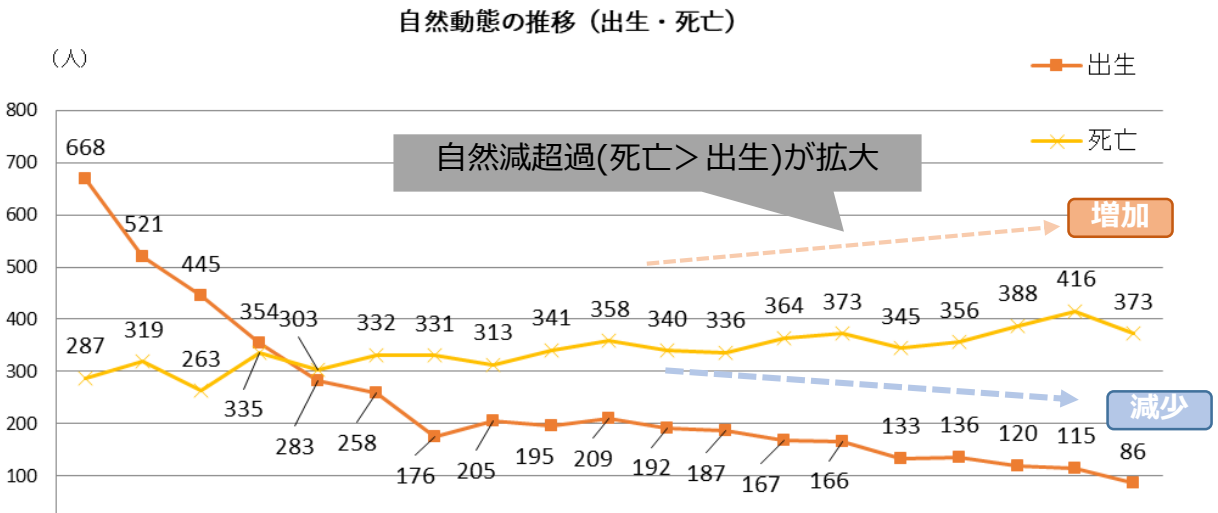
分析の視点

- 人口ピラミッドの形状は、少子高齢化がさらに進むことで、人口のボリューム層が高齢者に偏ったことにより逆三角形に近い「つぼ型」へ変化。
- グラフ下部の年齢3区分の構成比においては、2000年→2021年にかけて、老年人口は全人口の約1.8割→約3.5割へ増加し、生産年齢人口は約6.6割→約5.5割へ減少、年少人口は約1.5割→約1.0割へ減少。
- 若年層25～44歳の女性人口が大きく減少している。

人口増減（自然動態）

根室市の人口の変化が自然増減、社会増減のいずれの影響をより大きく受けてきたのかを把握する

データ



	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
出生	668	521	445	354	283	258	176	205	195	209	192	187	167	166	133	136	120	115	86
死亡	287	319	263	335	303	332	331	313	341	358	340	336	364	373	345	356	388	416	373
差引	381	202	182	19	▲20	▲74	▲155	▲108	▲146	▲149	▲148	▲149	▲197	▲207	▲212	▲220	▲268	▲301	▲287

資料：住民基本台帳（市民環境課）

分析の視点

・地域の人口の変動要因である<u>自然増減</u>と社会増減の数と変化を分析することで、地域の人口の変化が自然増減、社会増減のいずれの影響をより大きく受けてきたのか把握します。

（分析結果）

- 死亡数が出生数を上回る自然減となった2000年以降は、年々その差が拡大している。
- 自然減は、2017年以降200人台で推移し、2021年自然減が300人台へ拡大した。

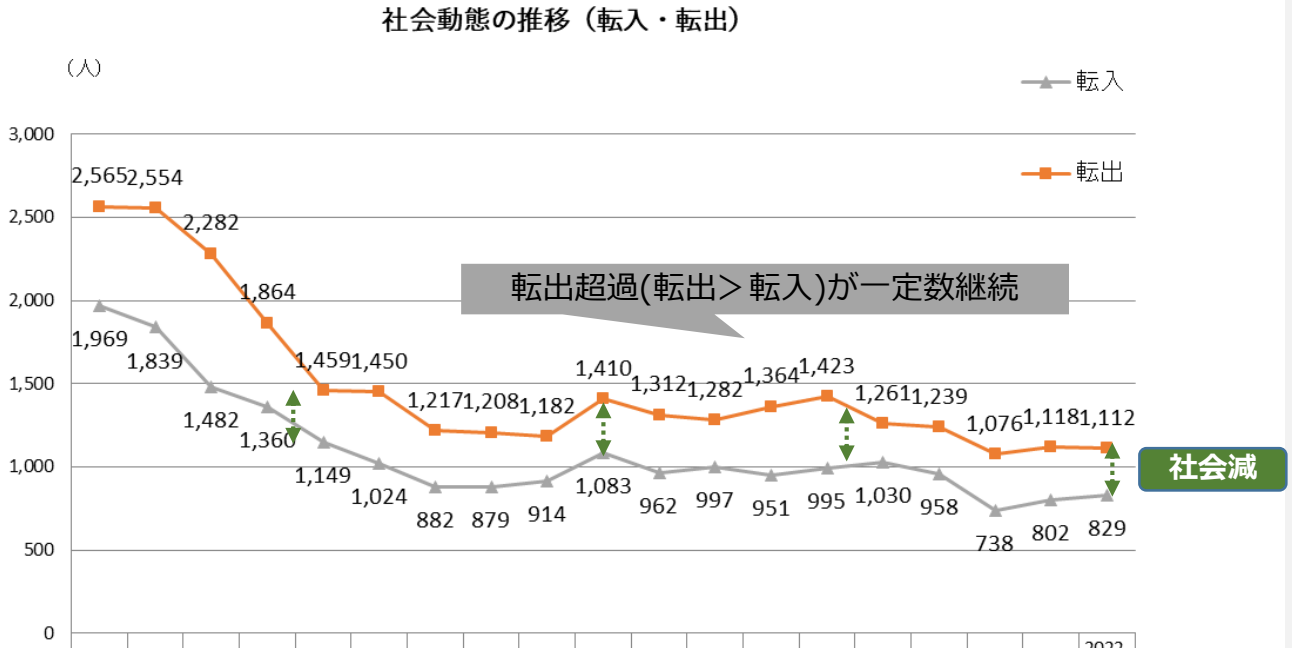
基礎知識

- 自然増減数：出生数から死亡数を減じた値を指します。出生数を死亡数が上回ることで、自然減となります。

人口増減（社会動態）

人口増減の内訳（社会増減）を分析し、人口の変化がどのような理由で起こっているのかを把握する

データ



	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10
転入	1,969	1,839	1,482	1,360	1,149	1,024	882	879	914	1,083	962	997	951	995	1,030	958	738	802	829
転出	2,565	2,554	2,282	1,864	1,459	1,450	1,217	1,208	1,182	1,410	1,312	1,282	1,364	1,423	1,261	1,239	1,076	1,118	1,112
差引	▲596	▲715	▲800	▲504	▲310	▲426	▲335	▲329	▲268	▲327	▲350	▲285	▲413	▲428	▲231	▲281	▲338	▲316	▲283

資料：住民基本台帳

分析の視点

・地域の人口の変動要因である自然増減と<u>社会増減</u>の数と変化を分析することで、地域の人口の変化が自然増減、社会増減のいずれの影響をより大きく受けてきたのか把握します。

（分析結果）

- 都市への人口流出で社会減が一定数で継続している。
- 社会減については、2018年は231人、2019年は281人、2020年は336人、2021年は316人で近年同様の傾向にある。
- また、本年10月現在で社会減が283人であり、前年同期（294人）と比べ、転出超過が減少傾向にある。

基礎知識

- 社会増減数：住民の転入数から転出数を減じた値を指します。転入数を転出数が上回ることで、社会減となります。

人口増減（年齢３区分別分析）

年齢３区分別の転入・転出の推移を分析し、どの区分で増減が大きいのかを把握する

データ

資料：住民基本台帳

年齢３区分別転入者数の推移（日本人のみ）

	転入（男）				転入（女）				転入（合計）			
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	合計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	合計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	合計
2012年	54	494	8	556	51	273	8	332	105	767	16	888
2013年	58	448	11	517	61	274	19	354	119	722	30	871
2014年	38	441	5	484	44	253	14	311	82	694	19	795
2015年	51	418	9	478	47	252	14	313	98	670	23	791
2016年	48	413	14	475	41	240	10	291	89	653	24	766
2017年	41	432	10	483	32	220	18	270	73	652	28	753
2018年	44	429	16	489	51	248	17	316	95	677	33	805
2019年	30	381	14	425	28	189	11	228	58	570	25	653
2020年	34	360	12	406	32	202	14	248	66	562	26	654
2021年	26	393	13	432	31	211	11	253	57	604	24	685

年齢３区分別転出者数の推移（日本人のみ）

	転出（男）				転出（女）				転出（合計）			
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	小計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	小計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	合計
2012年	67	562	26	655	63	377	42	482	130	939	68	1,137
2013年	92	545	23	660	79	391	54	524	171	936	77	1,184
2014年	82	544	22	648	70	380	45	495	152	924	67	1,143
2015年	71	521	23	615	57	366	49	472	128	887	72	1,087
2016年	82	562	37	681	51	355	65	471	133	917	102	1,152
2017年	89	511	24	624	96	418	51	565	185	929	75	1,189
2018年	60	517	27	604	51	327	55	433	111	844	82	1,037
2019年	54	484	25	563	48	304	46	398	102	788	71	961
2020年	62	499	20	581	58	314	48	420	120	813	68	1,001
2021年	39	479	40	558	66	333	58	457	105	812	98	1,015

年齢３区分別転出超過の推移（日本人のみ）

	転出超過（男）				転出超過（女）				転出超過（合計）			
	0～14歳	15～64歳	65歳以上	小計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	小計	0～14歳	15～64歳	65歳以上	合計
2012年	▲ 13	▲ 68	▲ 18	▲ 99	▲ 12	▲ 104	▲ 34	▲ 150	▲ 25	▲ 172	▲ 52	▲ 249
2013年	▲ 34	▲ 97	▲ 12	▲ 143	▲ 18	▲ 117	▲ 35	▲ 170	▲ 52	▲ 214	▲ 47	▲ 313
2014年	▲ 44	▲ 103	▲ 17	▲ 164	▲ 26	▲ 127	▲ 31	▲ 184	▲ 70	▲ 230	▲ 48	▲ 348
2015年	▲ 20	▲ 103	▲ 14	▲ 137	▲ 10	▲ 114	▲ 35	▲ 159	▲ 30	▲ 217	▲ 49	▲ 296
2016年	▲ 34	▲ 149	▲ 23	▲ 206	▲ 10	▲ 115	▲ 55	▲ 180	▲ 44	▲ 264	▲ 78	▲ 386
2017年	▲ 48	▲ 79	▲ 14	▲ 141	▲ 64	▲ 198	▲ 33	▲ 295	▲ 112	▲ 277	▲ 47	▲ 436
2018年	▲ 16	▲ 88	▲ 11	▲ 115	0	▲ 79	▲ 38	▲ 117	▲ 16	▲ 167	▲ 49	▲ 232
2019年	▲ 24	▲ 103	▲ 11	▲ 138	▲ 20	▲ 115	▲ 35	▲ 170	▲ 44	▲ 218	▲ 46	▲ 308
2020年	▲ 28	▲ 139	▲ 8	▲ 175	▲ 26	▲ 112	▲ 34	▲ 172	▲ 54	▲ 251	▲ 42	▲ 347
2021年	▲ 13	▲ 86	▲ 27	▲ 126	▲ 35	▲ 122	▲ 47	▲ 204	▲ 48	▲ 208	▲ 74	▲ 330

分析の視点

年齢３区分別の転入・転出者の推移より、転出超過を把握する。

（分析結果）

- 2021年は、前年に比べ転入者数が増加し、転出者数は微増している。
- 2021年の転出超過は、2020年と比べ減少し改善しており、特に生産年齢人口が改善している。
- 2021年の年少人口の転出超過は、2020年に比べ、微減している一方、老年人口が大きく増加している。
- 2021年の女性の転出超過は、年齢３区分別全て、2020年に比べ増加している。

人口増減（生産年齢人口分析）

５歳階級別人口の転入・転出の推移を分析し、どの年齢層で増減が大きいのかを把握する

データ

資料：住民基本台帳

転入（男）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
2014年	23	79	59	56	51	49	46	43	26	9	441
2015年	10	68	68	40	57	61	41	44	23	6	418
2016年	26	71	58	51	45	57	43	34	23	5	413
2017年	24	94	80	46	48	48	35	34	18	5	432
2018年	30	85	51	51	47	49	44	36	31	5	429
2019年	16	70	52	37	46	49	41	43	20	7	381
2020年	25	61	67	35	34	30	50	25	25	8	360
2021年	28	73	72	48	42	34	46	18	23	9	393

転入（女）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
2014年	8	44	56	47	39	20	15	11	6	7	253
2015年	14	44	47	42	40	27	11	13	8	6	252
2016年	9	50	49	38	32	26	12	11	9	4	240
2017年	11	52	41	29	22	28	13	11	10	3	220
2018年	10	45	43	43	33	20	23	18	7	6	248
2019年	8	39	39	28	24	18	12	13	6	2	189
2020年	17	42	53	18	22	14	20	7	5	4	202
2021年	10	50	44	29	23	19	17	11	3	5	211

転出（男）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
2014年	52	79	80	52	66	69	51	45	32	18	544
2015年	36	78	68	68	48	71	45	38	54	15	521
2016年	73	72	72	81	54	71	51	38	31	19	562
2017年	48	74	86	48	45	67	57	47	24	15	511
2018年	41	89	75	51	59	53	61	38	38	12	517
2019年	46	73	74	48	47	60	52	37	37	10	484
2020年	45	81	80	64	38	57	51	40	22	21	499
2021年	51	73	75	46	52	49	44	38	33	18	479

転出（女）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
2014年	46	83	65	37	37	48	24	17	14	9	380
2015年	43	77	53	48	35	35	29	16	13	17	366
2016年	39	61	51	54	45	45	26	11	10	13	355
2017年	55	77	73	62	38	39	36	10	16	12	418
2018年	47	67	46	32	34	40	26	18	8	9	327
2019年	43	57	47	28	30	36	18	22	15	8	304
2020年	45	68	47	37	24	34	21	16	13	9	314
2021年	27	87	52	42	40	29	20	17	9	10	333

転出超過（男）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
2014年	▲ 29	0	▲ 21	4	▲ 15	▲ 20	▲ 5	▲ 2	▲ 6	▲ 9	▲ 103
2015年	▲ 26	▲ 10	0	▲ 28	9	▲ 10	▲ 4	6	▲ 31	▲ 9	▲ 103
2016年	▲ 47	▲ 1	▲ 14	▲ 30	▲ 9	▲ 14	▲ 8	▲ 4	▲ 8	▲ 14	▲ 149
2017年	▲ 24	20	▲ 6	▲ 2	3	▲ 19	▲ 22	▲ 13	▲ 6	▲ 10	▲ 79
2018年	▲ 11	▲ 4	▲ 24	0	▲ 12	▲ 4	▲ 17	▲ 2	▲ 7	▲ 7	▲ 88
2019年	▲ 30	▲ 3	▲ 22	▲ 11	▲ 1	▲ 11	▲ 11	6	▲ 17	▲ 3	▲ 103
2020年	▲ 20	▲ 20	▲ 13	▲ 29	▲ 4	▲ 27	▲ 1	▲ 15	3	▲ 13	▲ 139
2021年	▲ 23	0	▲ 3	2	▲ 10	▲ 15	2	▲ 20	▲ 10	▲ 9	▲ 86

転出超過（女）

	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合計
2014年	▲ 38	▲ 39	▲ 9	10	2	▲ 28	▲ 9	▲ 6	▲ 8	▲ 2	▲ 127
2015年	▲ 29	▲ 33	▲ 6	▲ 6	5	▲ 8	▲ 18	▲ 3	▲ 5	▲ 11	▲ 114
2016年	▲ 30	▲ 11	▲ 2	▲ 16	▲ 13	▲ 19	▲ 14	0	▲ 1	▲ 9	▲ 115
2017年	▲ 44	▲ 25	▲ 32	▲ 33	▲ 16	▲ 11	▲ 23	1	▲ 6	▲ 9	▲ 198
2018年	▲ 37	▲ 22	▲ 3	11	▲ 1	▲ 20	▲ 3	0	▲ 1	▲ 3	▲ 79
2019年	▲ 35	▲ 18	▲ 8	0	▲ 6	▲ 18	▲ 6	▲ 9	▲ 9	▲ 6	▲ 115
2020年	▲ 28	▲ 26	6	▲ 19	▲ 2	▲ 20	▲ 1	▲ 9	▲ 8	▲ 5	▲ 112
2021年	▲ 17	▲ 37	▲ 8	▲ 13	▲ 17	▲ 10	▲ 3	▲ 6	▲ 6	▲ 5	▲ 122

分析の視点

（分析結果）

- 2021年は、2020年に比べ男性の転入者数が増加し、転出者数が減少したことから、転出超過数は減少している。
  （特に、20~34歳、40~44歳において転出超過が減少）
- 一方、女性も2020年に比べ転入者数が増加したが、転出者数も増加したため、転出超過数は増加している。
- 2021年の女性の転出については、20～39歳の女性において、前年と比べ増加している。

人口増減（年少人口における５歳階級別分析）

年少人口における５歳階級別の転入・転出の推移を分析し、どの区分で増減が大きいのかを把握する

データ

資料：住民基本台帳

転入（男）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
2014年	25	11	2
2015年	31	12	8
2016年	29	12	7
2017年	21	10	10
2018年	33	9	2
2019年	14	8	8
2020年	15	9	10
2021年	12	10	4

転入（女）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
2014年	28	11	5
2015年	26	16	5
2016年	22	13	6
2017年	16	9	7
2018年	31	19	1
2019年	21	5	2
2020年	19	10	3
2021年	22	5	4

転出（男）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
2014年	32	27	23
2015年	35	22	14
2016年	37	28	17
2017年	48	25	16
2018年	30	16	14
2019年	31	12	11
2020年	30	18	14
2021年	21	14	4

転出（女）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
2014年	40	19	11
2015年	27	15	15
2016年	25	12	14
2017年	50	27	19
2018年	22	18	11
2019年	22	18	8
2020年	21	26	11
2021年	31	21	14

転出超過（男）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
2014年	▲ 7	▲ 16	▲ 21
2015年	▲ 4	▲ 10	▲ 6
2016年	▲ 8	▲ 16	▲ 10
2017年	▲ 27	▲ 15	▲ 6
2018年	3	▲ 7	▲ 12
2019年	▲ 17	▲ 4	▲ 3
2020年	▲ 15	▲ 9	▲ 4
2021年	▲ 9	▲ 4	0

転出超過（女）

	0～4歳	5～9歳	10～14歳
2014年	▲ 12	▲ 8	▲ 6
2015年	▲ 1	1	▲ 10
2016年	▲ 3	1	▲ 8
2017年	▲ 34	▲ 18	▲ 12
2018年	9	1	▲ 10
2019年	▲ 1	▲ 13	▲ 6
2020年	▲ 2	▲ 16	▲ 8
2021年	▲ 9	▲ 16	▲ 10

分析の視点

年少人口における５歳階級別の転入・転出の推移より、転出超過を把握する。

（分析結果）

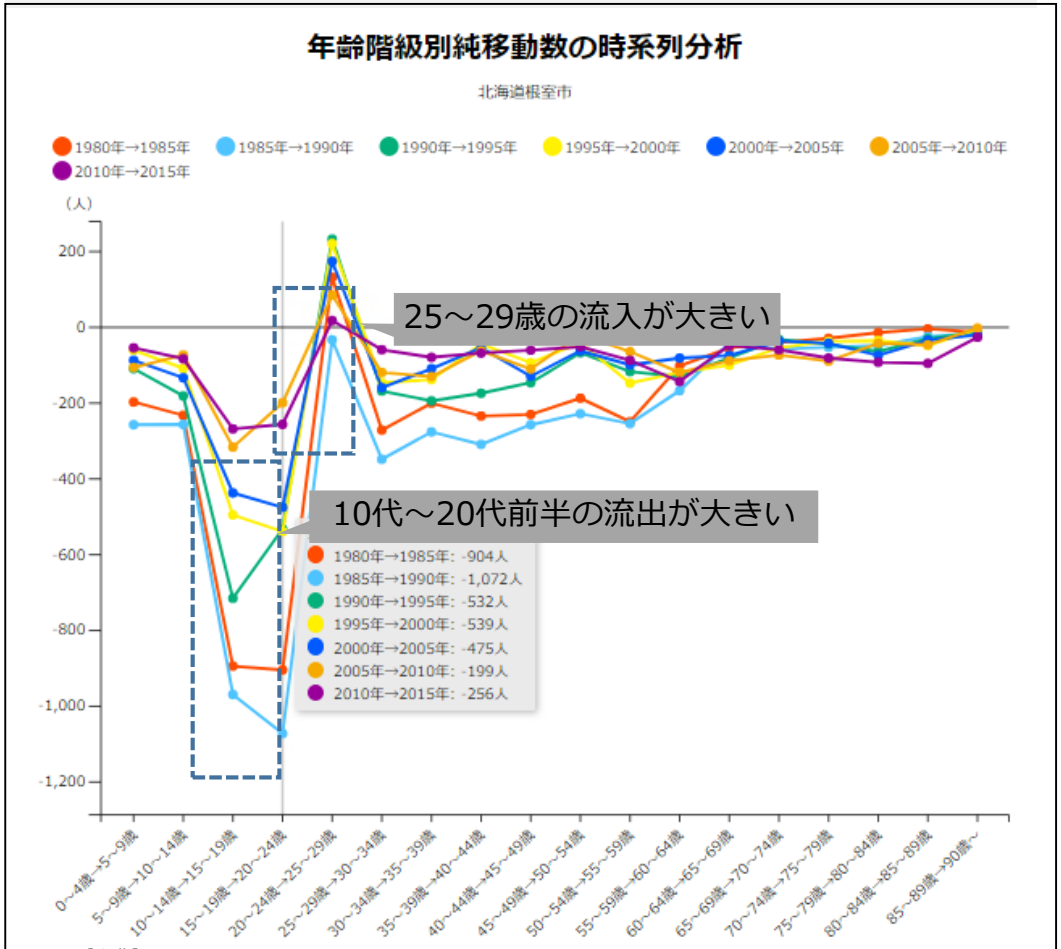
- 2021年は、2020年と比べ男女共に転出超過の状況にある。
- 2021年と2020年の比較で、男性においては年齢3区分全てで改善傾向にあるものの、女性はさらに転出傾向にある。
- 年少人口の減少は、出生数の減少のみならず、家族での転出による影響も考えられる。

年齢階級別純移動数の時系列分析

人口変化の一因である社会増減について、世代別、地域別での転入・転出を分析し、転入促進・転出抑止すべき世代、地域を把握する

データ

ORESAS：経済産業省、内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局提供データ（https://resas.go.jp）



【出典】
総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

分析の視点

- **社会増減の背景として、どの年代が多く転入し、転出しているのかを分析することで、転入を促進すべき、または転出を抑止すべき年代を把握します。特に、下記の傾向が考えられます。**
  - ✓ 15～19歳　→　20～24歳の増減：
    大学・専門学校等の進学を契機とした転出入
  - ✓ 20～24歳　→　25～29歳：就職を契機とした転出入
  - ✓ 60～64歳　→　65～69歳：
    退職に伴う転入出、老後の健康、介護を見据えた転出入

（分析結果）

- ➢ 20歳代前半や20歳代以前の人口が大きく流出している一方で、25～29歳の人口の流入は減少傾向にあるが、流出を埋め合わせられない傾向が強まっている。
- ➢ 特に、20歳代後半の流入が大きく、若者が多く転入していることわかる。つまり、根室へ就職される方など、25～29歳の働き手が多数いると考えられる。
- ➢ 30～60歳未満の転入・転出数は、一定数で推移している。

基礎知識

- 年齢階級別純移動数：5歳階級毎に、その階級の人口を5年後の人口から差し引いて得られる純移動数を指します。

From-to分析（定住人口）

人口変化の一因である社会増減について、世代別、地域別での転入・転出を分析し、転入促進・転出抑止すべき世代、地域を把握する

データ

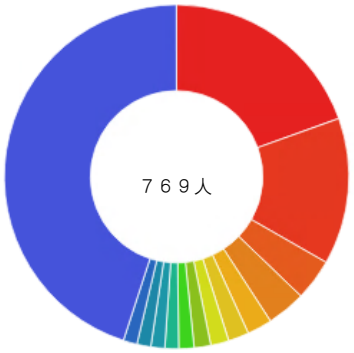
From-to分析（定住人口）

北海道根室市

２０２１年

転入数内訳

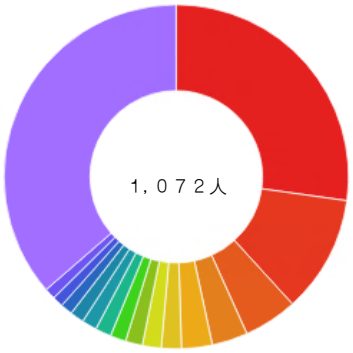
総数



1位　北海道札幌市　150人（19.51%）
2位　北海道釧路市　106人（13.78%）
3位　北海道中標津町　30人（3.90%）
4位　北海道別海町　28人（3.64%）
5位　北海道帯広市　18人（2.34%）
6位　北海道小樽市　15人（1.95%）
7位　北海道稚内市　13人（1.69%）
8位　神奈川県横浜市　12人（1.56%）
9位　大阪府大阪市　11人（1.43%）
10位　京都府舞鶴市　10人（1.30%）

転出数内訳

総数



1位　北海道札幌市　292人（27.24%）
2位　北海道釧路市　118人（11.01%）
3位　北海道中標津町　54人（5.04%）
4位　北海道帯広市　36人（3.36%）
5位　北海道別海町　31人（2.89%）
6位　北海道北見市　20人（1.87%）
7位　北海道苫小牧市　19人（1.77%）
8位　北海道小樽市　17人（1.59%）
9位　北海道千歳市　16人（1.49%）
9位　北海道網走市　16人（1.49%）

【出典】総務省「住民基本台帳人口移動報告」

分析の視点

- **社会増減の背景として、転入・転出先の上位となっている地方公共団体の傾向を把握します。特に下記の傾向が見られます。**

✓ 転出先：①道内の規模の大きな地方公共団体への転出
②近隣の地方公共団体への転出

✓ 転入元：①道内の規模の大きな地方公共団体からの転入
②近隣の地方公共団体への転入

（分析結果）

➢ 転入・転出数の総数から、転出超過になっており、転入・転出先の上位には札幌市のほか、釧路市、中標津町など主に近隣の地方公共団体での出入りがみられた。

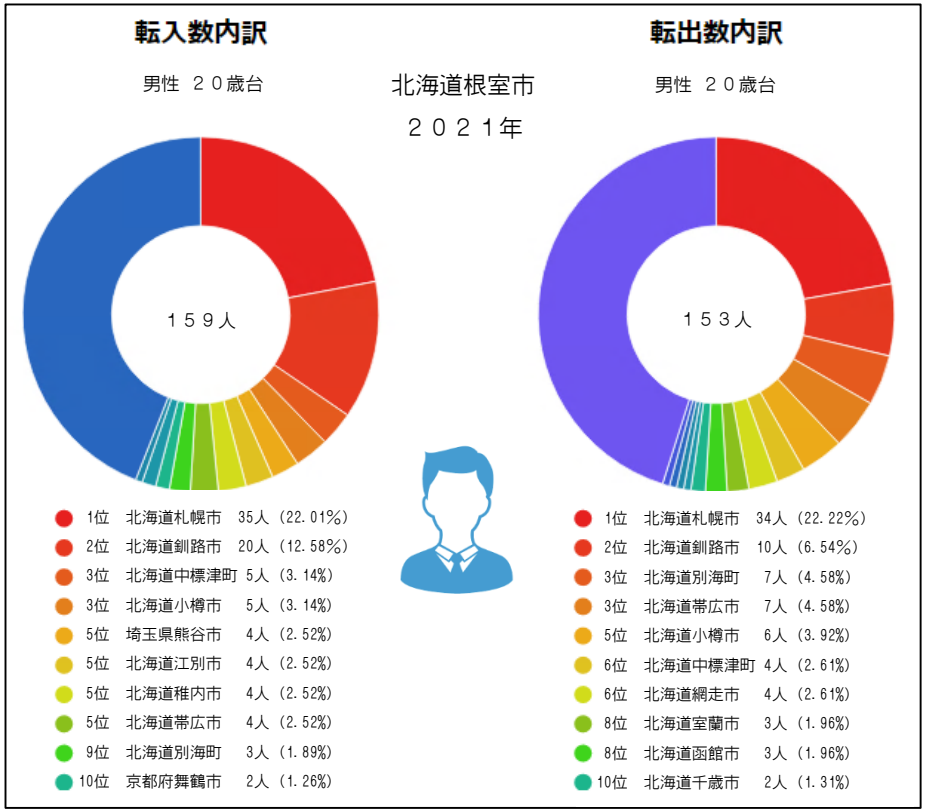
基礎知識

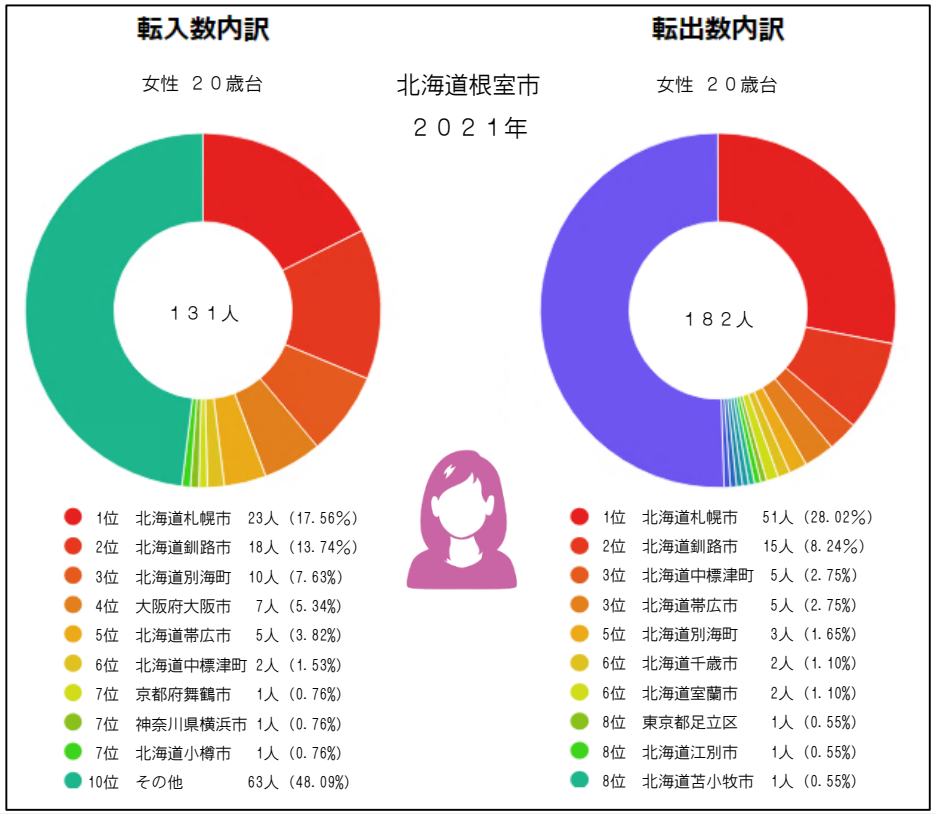
・総務省「住民基本台帳人口移動報告」には、外国人の転入・転出者のうち、国外⇔国内の移動者は含まないため、６ページの転入・転出者数と一致しない

From-to分析（定住人口）- 男女20歳台

人口変化の一因である社会増減について、世代別、地域別での転入・転出を分析し、転入促進・転出抑止すべき世代、地域を把握する

データ





【出典】
総務省「住民基本台帳人口移動報告」

分析の視点

- **年齢階級別純移動数の時系列分析の分析結果を踏まえ、転入・転出の多い年代について、どの年代・性別がどの地方公共団体へ多く転入・転出しているのかを分析することで、転入を促進すべき、または転出を抑止すべき年代・属性を把握します。**

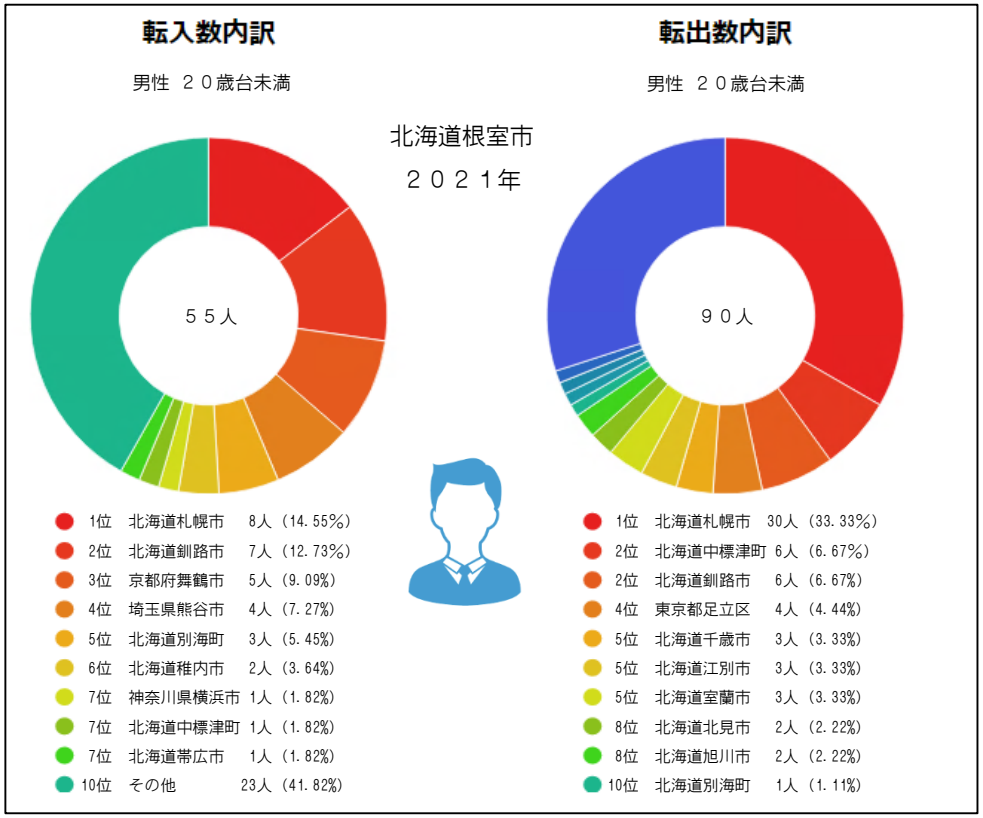
（分析結果）

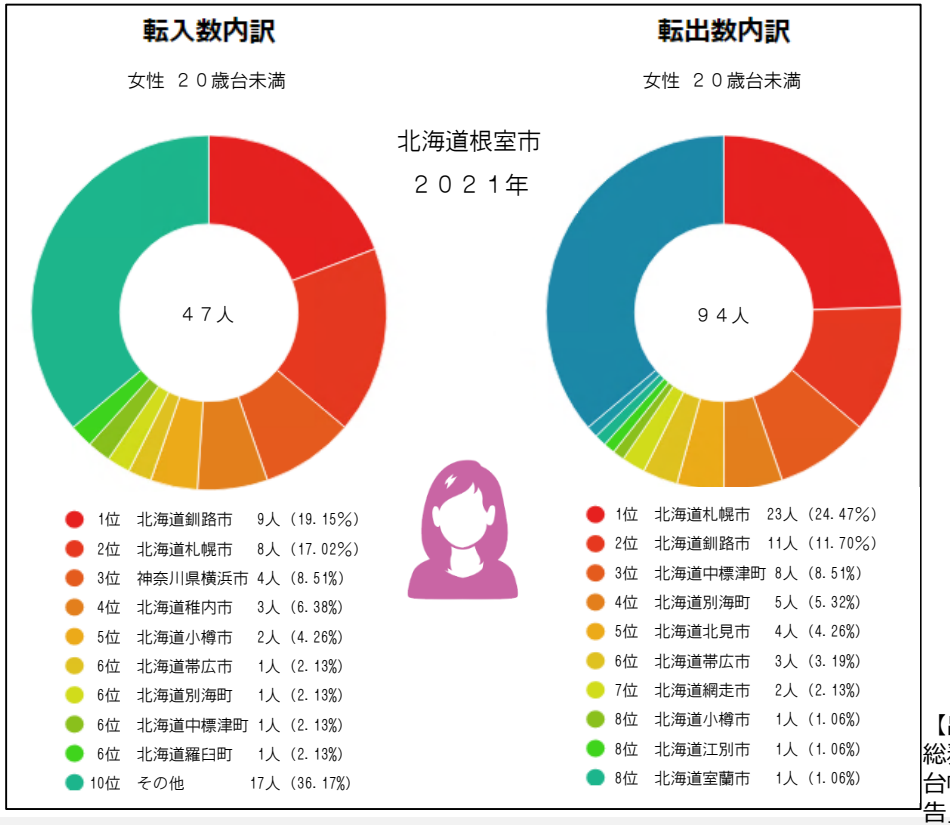
- 20歳代の転入・転出数の比率を見ると、女性の転出超過の傾向が強い。
- 20歳代女性の転出超過は、札幌市が顕著である。

From-to分析（定住人口）- 男女20歳台未満

人口変化の一因である社会増減について、世代別、地域別での転入・転出を分析し、転入促進・転出抑止すべき世代、地域を把握する

データ





【出典】
総務省「住民基本台帳人口移動報告」

分析の視点

- **<u>年齢階級別純移動数の時系列分析</u>の分析結果を踏まえ、転入・転出の多い年代について、どの年代・性別がどの地方公共団体へ多く転入・転出しているのかを分析することで、転入を促進すべき、または転出を抑止すべき年代・属性を把握します。**

（分析結果）

- ➢ 20歳台未満の転入・転出数の比率を見ると、男女共に、転出超過の傾向が同様である。
- ➢ 20歳台未満の男・女共に、転出超過が大きい地方自治体は、札幌市である。

人口動態分析のまとめ

	分析結果
人口増減	■ 2019年と400人台で推移していた人口減少幅は、2020年は599人、2021年は627人、2022年10月末現在は577人で、**昨年同期（538人）と比較すると若干増加傾向にある**。 【人口推移（人口・世帯数）】 ■ 2022年10月末現在においても、前年同期に比べ出生数が減少し、死亡者数が増加している。 【人口推移（人口・世帯数）】 ■ 人口減少数においては、2018年から2020年まで男性が多く減少していたが、2019年から男女が逆転し、女性の人口減が進んでいる。 【人口推移（人口・世帯数）】
社会増減	■ 2021年の男性の生産年齢人口においては、2020年と比べ、転入増及び転出減により減少幅が縮小し、**転出超過が大きく改善した**。一方、女性については、転出増が加速しており、**若年層の女性（20～39歳）の減少が顕著にみられる**。 【人口増減（生産年齢人口分析）】 ■ 総人口での転出超過は、2021年は2020年と比べて改善している。 【人口増減（年齢３区分別分析）】 ■ 社会減の影響は、20歳台の女性の転出超過によるものが大きい。また、転出先は札幌市が多い。 【From-to分析（定住人口）】 ■ 2021年の社会減において、20歳台男性は転入超過に対し、女性は転出超過である。 【From-to分析（定住人口）】
自然増減	■ 年々出生数が減少傾向、死亡者数も増加傾向にあり、自然減が加速している。 【自然増減（人口動態）】 ■ 少子化については、若年層の女性（20～39歳）の減少の影響も考えられる。 【人口ピラミッド】

以下参考資料

（単位：人）

【年齢別人口（合計）】

	2000	2005	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022.10	増減数 2021/2020	増減数 2022/2021
0～4	1,507	1,340	1,052	1,012	971	981	946	947	916	846	809	755	674	631	582	▲ 43	▲ 49
5～9	1,712	1,381	1,227	1,177	1,169	1,115	1,063	1,004	950	878	872	848	855	812	793	▲ 43	▲ 19
10～14	1,855	1,600	1,320	1,321	1,254	1,195	1,198	1,157	1,081	1,069	1,019	989	916	857	817	▲ 59	▲ 40
15～19	1,964	1,640	1,441	1,390	1,378	1,352	1,236	1,207	1,188	1,107	1,073	1,044	997	955	956	▲ 42	1
20～24	1,688	1,364	1,202	1,192	1,339	1,276	1,214	1,182	1,162	1,170	1,137	1,064	1,020	980	940	▲ 40	▲ 40
25～29	2,235	1,709	1,409	1,339	1,329	1,322	1,321	1,259	1,238	1,229	1,169	1,161	1,157	1,146	1,091	▲ 11	▲ 55
30～34	2,108	2,069	1,624	1,540	1,467	1,397	1,382	1,351	1,267	1,181	1,162	1,129	1,062	1,080	1,045	18	▲ 35
35～39	2,171	1,967	1,895	1,845	1,805	1,705	1,589	1,522	1,457	1,366	1,289	1,284	1,251	1,186	1,158	▲ 65	▲ 28
40～44	2,182	2,090	1,884	1,910	1,926	1,891	1,864	1,844	1,748	1,682	1,617	1,488	1,383	1,332	1,250	▲ 51	▲ 82
45～49	2,619	2,027	1,952	1,870	1,884	1,893	1,829	1,813	1,823	1,758	1,715	1,706	1,681	1,607	1,566	▲ 74	▲ 41
50～54	2,839	2,495	1,970	1,948	1,927	1,907	1,905	1,880	1,803	1,809	1,812	1,753	1,710	1,711	1,662	1	▲ 49
55～59	2,498	2,695	2,368	2,198	2,055	1,939	1,878	1,843	1,850	1,832	1,857	1,835	1,804	1,710	1,720	▲ 94	10
60～64	2,456	2,311	2,491	2,546	2,587	2,486	2,367	2,183	2,023	1,881	1,763	1,711	1,710	1,721	1,696	11	▲ 25
65～69	2,113	2,243	2,114	2,052	2,011	2,072	2,178	2,326	2,361	2,395	2,293	2,188	2,031	1,882	1,779	▲ 149	▲ 103
70～74	1,664	1,907	2,045	2,068	2,035	2,053	2,024	1,952	1,889	1,832	1,882	1,964	2,096	2,110	2,141	14	31
75～79	1,123	1,427	1,607	1,699	1,759	1,802	1,760	1,766	1,790	1,774	1,803	1,792	1,708	1,645	1,604	▲ 63	▲ 41
80～84	660	846	1,123	1,091	1,146	1,147	1,194	1,246	1,324	1,396	1,421	1,396	1,419	1,458	1,430	39	▲ 28
85～89	308	457	566	620	625	642	719	762	740	766	796	839	862	899	915	37	16
90～94	136	150	242	242	267	292	295	285	316	322	351	395	404	386	388	▲ 18	2
95～99	20	50	53	67	69	73	79	89	84	98	102	102	98	105	102	7	▲ 3
100～	1	3	11	12	12	9	9	11	8	8	11	14	20	18	19	▲ 2	1
合計	33,859	31,771	29,596	29,139	29,015	28,549	28,050	27,629	27,018	26,399	25,953	25,457	24,858	24,231	23,654	▲ 627	▲ 577

【月別人口推移】

	１　月	２　月	３　月	４　月	５　月	６　月	７　月	８　月	９　月	１０　月	１１　月	１２　月
2000年	34,171	34,148	33,686	33,923	33,907	33,933	33,952	33,921	33,902	33,908	33,884	33,859
2001年	33,847	33,835	33,451	33,637	33,590	33,565	33,536	33,540	33,510	33,487	33,498	33,488
2002年	33,492	33,453	32,998	33,165	33,143	33,152	33,136	33,095	33,069	33,043	33,050	33,028
2003年	33,019	32,965	32,641	32,808	32,766	32,788	32,755	32,728	32,693	32,681	32,668	32,668
2004年	32,641	32,613	32,194	32,356	32,350	32,338	32,316	32,331	32,299	32,296	32,281	32,266
2005年	32,246	32,204	31,803	31,965	31,938	31,935	31,899	31,889	31,848	31,821	31,801	31,771
2006年	31,764	31,736	31,349	31,560	31,546	31,515	31,495	31,475	31,443	31,426	31,413	31,381
2007年	31,346	31,307	31,059	31,083	31,029	31,037	31,003	30,973	30,930	30,903	30,887	30,881
2008年	30,863	30,821	30,560	30,627	30,605	30,578	30,572	30,545	30,526	30,510	30,498	30,469
2009年	30,442	30,432	30,209	30,203	30,201	30,181	30,173	30,159	30,129	30,110	30,083	30,081
2010年	30,053	30,037	29,868	29,832	29,785	29,772	29,754	29,719	29,675	29,631	29,609	29,596
2011年	29,588	29,554	29,330	29,357	29,319	29,307	29,286	29,289	29,240	29,226	29,185	29,139
2012年	29,111	29,087	28,923	28,915	28,907	28,883	29,142	29,097	29,077	29,075	29,034	29,015
2013年	28,937	28,898	28,815	28,705	28,709	28,678	28,699	28,662	28,609	28,570	28,549	28,549
2014年	28,525	28,504	28,315	28,226	28,271	28,223	28,210	28,179	28,129	28,119	28,085	28,050
2015年	28,043	27,989	27,822	27,816	27,815	27,765	27,757	27,715	27,688	27,669	27,633	27,629
2016年	27,613	27,545	27,290	27,267	27,272	27,255	27,213	27,143	27,109	27,075	27,046	27,018
2017年	27,007	26,971	26,712	26,697	26,676	26,648	26,591	26,522	26,526	26,465	26,435	26,399
2018年	26,367	26,304	26,156	26,123	26,136	26,098	26,135	26,087	26,030	25,973	25,947	25,953
2019年	25,955	25,888	25,735	25,683	25,653	25,596	25,643	25,604	25,552	25,521	25,488	25,457
2020年	25,425	25,404	25,164	25,183	25,156	25,070	25,052	25,011	24,958	24,912	24,873	24,858
2021年	24,835	24,825	24,594	24,591	24,539	24,490	24,459	24,402	24,347	24,311	24,284	24,231
2022年	24,163	24,081	23,793	23,829	23,810	23,774	23,739	23,699	23,667	23,654		

出展：「住民基本台帳」（市民環境課）